

第13回きぼう利用推進有識者委員会 議事要旨

1. 日時:2021年3月22日(月)13:00~15:00
2. 場所:Microsoft Teams会議/JAXA東京事務所会議室

3. 出席者

(1) 委員

永井委員長、山本副委員長、浅島委員、岡町委員、奥村委員、佐宗委員、種家委員、西島委員、丹羽委員、浜崎委員

(2) JAXA/事務局

佐々木宏、川崎一義、小川志保、白川正輝、館下博昭、加藤充康 他

4. 議事要旨

各議題において委員より頂いたご意見をもとに、きぼう利用戦略に基づく利用推進策に取り組み、2025年以降を見据えた地球低軌道利用の方策についてさらに検討を進める。主な議論及びご意見は以下のとおり。

(1) ISS・地球低軌道利用に関する周辺状況について(報告)

- 国内外の動向、ISS・「きぼう」における利用成果について報告した。他国の動向を注視しつつ、2024年以降の地球低軌道の活動の中で特にISS・きぼうに期待される成果やISS運用延長の動機付けを明確にすることで、従来の方針に沿った「きぼう」利用の拡大か、新しい取り組みにより力を入れるべきかを明確にすべき等のご意見があった。

(2) ISS 運用延長を見据えた「きぼう」利用の方向性(討議)

- 今後の利用推進に関する主な課題を踏まえた2025年から2030年頃にISSを用いて実施すべき方策案、2021年度船内科学利用テーマ募集に向けた方針を説明し、討議がなされた。
- ベンチャー企業等に対する小型衛星放出事業の支援、タンパク実験等の地上技術の進展を踏まえた宇宙環境利用の方向性、利用拡大には民間事業者を含めて国民に広く「きぼう」利用の意義が認知される必要があり、利用成果、機会や方法、費用負担等の更なる「見える化」の促進とともに、目標設定とその乖離の要因分析やユーザの立場に立ち対話を進めることの重要性などについてご意見があった。
- ISS・きぼうが最先端のサイエンスを実施する場であることを再度認識する必要があり、民間ニーズや科学利用でフラグシップとなる科学ミッションを検討する際は、サイエンスとしての成果が何かを議論したうえで大きな成果創出を図ることが重要であるとのご意見があった。
- フラグシップ科学ミッション候補案として、マウスの可変重力環境、ヒト/マウスデータベース関連、AI活用等が考えられる。科学利用の観点からも日本独自の打上・回収機会、成果創出のための国際協力、JAXAによる地上実験等支援の必要性についてご意見があった。

(3) きぼう利用のアウトリーチ活動について(報告)

- 論文成果等のWEB掲載、きぼう利用シンポジウム/NASA-JAXA合同ワークショップ、きぼう利用プロモーション活動、国際的利用成果とりまとめ活動についての報告を行った。
- 野口飛行士のISS長期滞在等で宇宙科学、きぼう利用への国民の興味関心が高まっている時期であり、SDGsの観点を含めJAXAの取り組みを広く発信されることを期待する等のご意見があった。

以上